

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 2 日現在

機関番号：13901

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23653066

研究課題名(和文)開発と幸福：開発目的の多様化・内生化に関する開拓研究

研究課題名(英文)Development and Happiness: An Inquiry into the Diversification and Endogenization of the Goals of Development

研究代表者

大坪 滋 (OTSUBO, Shigeru)

名古屋大学・国際開発研究科・教授

研究者番号：40247622

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円、(間接経費) 750,000円

研究成果の概要(和文)：国際開発協力コミュニティではPost-MDGs「開発目的」議論の中で、「持続的な開発と幸福」の主流化を指向。開発目的の多様化に取り組む展開研究が必要となる。国際開発学会において、関連するPlenary Sessionを提供。「国民総幸福」のブータン王国政府と協働して「人々の幸福と環境を中心に据える開発概念」提案書を国連に提出。JICA研究所から多様化する諸開発指標の構築と分析の雛形を公刊。Globalization and Development Vol. II: In Search of a New Development Paradigm (Routledge, 2014)を英文出版予定。

研究成果の概要(英文)：In the 'Goals of Development' arguments among the international development cooperation community, 'Sustainable and Happiness-oriented Development' has been mainstreamed toward the Post-MDGs era. Development research that deals with diversification of development goals is highly desired. This project was initiated by offering a Plenary Session 'Diversification of Development Goals under Globalization' at the 22nd JASID National Conference. In collaboration with the Government of Bhutan, famous for its political philosophy of 'Gross National Happiness,' a report 'Happiness: Towards a New Development Paradigm' was compiled and submitted to the UN. In order to offer prototype rigorous analyses in this issue, 'Measurements and Determinants of Multifaceted Poverty' was published from the JICA Research Institute. To wrap up this initiating research project, a book, 'Globalization and Development Vol. II: In Search of a New Development Paradigm' will be published in 2014 (from Routledge).

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学;応用経済学

キーワード：開発と幸福 グローバリゼーション 経済開発 Post MDGs Subjective Well-being 人間開発 国際研究者交流(ブータン、タイ、インドネシア等) 国際情報交換(ブータン、タイ、インドネシア等)

1. 研究開始当初の背景

世界の国際開発協力コミュニティが開発の世界統一目標として掲げた「世紀の開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)」の目標達成年とされた 2015 年を間近に控え、今、世界では 2015 年以降の Post-MDGs の開発目標再設定の方向性議論酣である。国連を中心に、経済学者のみならず政治学者、社会学者、人類学者や環境学者、ビジネス界、政界を巻込んで、開発目的の多様化を見据えた駆け引きが盛んに行なわれている。

世界の国際開発・協力コミュニティにおいて「開発」の目的は、先ず所得増大・雇用機会の増大を通じた所得・消費貧困の削減(経済開発)であるとされ、次に医療・保健・衛生・教育水準の向上(社会開発)が直接・間接的に目的とされ、更には人権・自由(社会的排除の回避を含む)の確立に繋がる人間のエンパワーメントを主体とした能力・機会向上(人間開発)へと拡大・進化してきた。当研究者も開発研究を『国際開発学入門 開発学の学際的構築』としてまとめ、多様化・多目的化する開発努力への学際的取組みを、開発経済学・開発政治学・開発社会学をコアに関連諸学問を統合する研究として提示した(2010年国際開発学会賞・特別賞受賞)。現在基盤A(海外学術)研究で、グローバル化の貧困や格差への影響が諸国間で異なる事由を解き明かす国際共同比較制度分析を展開中であるが、ここにおいて開発の目的関数の設定において開発経済学者が経済成長促進を通じて達成すべき究極の目的の内生化を試みる革新的研究の必要性を痛感するに至った。

研究代表者は名古屋大学赴任以前、国際連合国際経済社会問題局および世界銀行国際経済局において開発途上諸国の国際経済への統合準備と成長促進に関する研究・政策対話を行い、その成果を世界銀行年刊 *Global Economic Prospects and the Developing Countries* 等で発信してきた。大学においては**基盤研究(B)(一般)(H18-20)**「**グローバル化下の途上国開発戦略の統合研究：「国際開発経済学」の構築**」で国際経済統合の影響を、経済のみならず政治・制度、文化・社会面から分析する、多彩な研究領域の国内研究者たちによる統合研究を行い、その成果を大坪滋編『**グローバル化と開発**』(勁草書房：2009年2月刊行)にまとめた。そこでは、途上国経済社会への経済統合の影響の「国家間のばらつき」は、各国の(土着)社会経済制度、政策スタンスや諸制約要因等の各国特殊要因によるところが多いことが示された。そこで先ず「多領域ネットワーク型研究モデル」を大坪滋他編『**国際開発学入門 開発学の学際的構築**』(勁草書房：2009年12月刊行)の編纂を通じて確立した。次に i) ケース国を選定し、当該国の

研究機関の協力を得ての海外学術調査・国際共同研究に基づく国際比較研究を展開すること、ii) 経済研究を核としつつも従来その研究対象の領域外にあった社会経済制度、ガバナンス、そして経済外の領域を含む政策パッケージや文化基盤に至る領域拡張型学際研究を展開することによりそれら各国特殊要因を洗い出し比較する**基盤研究(A)(海外学術)(H22-25)**「**グローバル化が途上国の貧困・格差に及ぼす影響の国際比較研究**」を開始した。7ヶ国17研究機関の参加する本国際共同比較制度分析プロジェクトの進行開始直後から、開発経済学が主題としてきた従来の貧困削減の三角形(次ページ図参照)への経済グローバル化の影響についての比較制度分析を開発経済学・国際経済学の諸理論の再構築や実証研究・ケース研究を通して進めることは妥当であるが、同時にこの三角形の政策目的に、所得・消費水準で計測された貧困指標の最小化を抱き続けることの是非についての萌芽研究をスタートさせ、併走させることの必要性が多く海外研究協力者から指摘されることとなった。国際機関では世紀開発目標(MDGs)の是非についての議論も湧き起こっており、先進国である我が国においても経済の成熟や高齢化にともない「幸福」な生活への必要要素を特定し、その水準を保とうという機運も高まり関連の内閣府調査も開始されている。

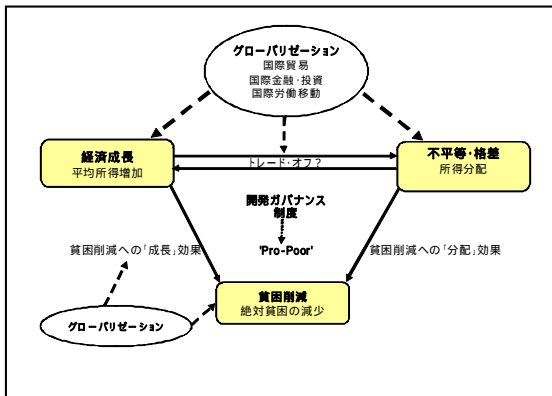
2. 研究の目的

世界の国際開発・協力コミュニティにおいて「開発」の目的は、先ず所得増大・雇用機会の増大を通じた所得・消費貧困の削減(経済開発)であるとされ、次に医療・保健・衛生・教育水準の向上(社会開発)が直接・間接的に目的とされ、更には人権・自由(社会的排除の回避を含む)の確立に繋がる人間のエンパワーメントを主体とした能力・機会向上(人間開発)へと拡大・進化してきた。当研究者も開発研究を『国際開発学入門 開発学の学際的構築』としてまとめ、多様化・多目的化する開発努力への学際的取組みを、開発経済学・開発政治学・開発社会学をコアに関連諸学問を統合する研究として提示した(2010年国際開発学会賞・特別賞受賞)。現在基盤A(海外学術)研究で、グローバル化の貧困や格差への影響が諸国間で異なる事由を解き明かす国際共同比較制度分析を展開中であるが、ここにおいて開発の目的関数の設定において開発経済学者が経済成長促進を通じて達成すべき究極の目的の内生化を試みる革新的研究の必要性を痛感するに至った。従来の(開発)制度経済学に最新の行動経済学の視点を取り込む理論フレームワークを構築・応用し、人間や国家社会の「幸福」を開発哲学としてきたブータン王国やタイ王国、成長から幸福へと舵取りを進める中国

の関連研究第 1 号者の協力を得て、理論・言説分析とケース分析の両面から 21 世紀にふさわしい「開発の目的」の開拓研究を、国連等の世界のこの分野の議論で先行する海外研究者の協力を得て立ち上げる。初期の研究成果や開発協力の新視点を順次、国際連合の Post-MDGs 議論、我が国の Post-MDGs 議論に反映させる政策翻訳を同時に開始する。

3. 研究の方法

本研究では、1) 先ず、「開発の目的」の多様化、再議論に関する既存研究ストックの確認を行う。2) (開発) 制度経済学と行動経済学の諸理論を統合応用し、開発の目的を内生化し、時系列変化を許容する理論分析フレームワークの構築を試みる。3) 次に、「開発の目的」において独自の政治哲学を有するブータン王国、タイ王国、中国、ガーナと経済成熟後の国家国民のあり方を模索する我が国において、「幸福」に代表される従来の経済的達成度を越えた諸要素における評価を政策展開に使用する取組みをケースとしてまとめ、多様化する概念整理を行うと共に、関連指標やサーベイのデザイン構築を行う。4) これらに基づき上記 4 ケース国の内、ブータン王国、タイ王国においては現地研究機関の協力を得て現地サーベイ調査を行う。5) 実証分析・ケース分析を通じて、開発ガバナンス（制度や政策パッケージを含む）が「開発の目的」に及ぼす影響を評価し、目的間、あるいは（加重）複合目的の達成に頑強性を有する開発政策、制度構築とは何かを探る。



開発経済学者を中心とする戦後世界の開発研究においては、上図に示された中央の三角形（ここでは逆三角形）即ち経済成長と所得分配と所得・消費支出で計測した貧困者（比率）の減少との関係において開発政策を吟味してきた。経済成長の貧困削減効果は「成長のトリクルダウ効果」と呼ばれ戦後世界の貧困数減少の約 7 割を担ってきたとされる。所得（および資産）の不平等解消が貧困層減少に及ぼす影響は「（再）分配効果」と呼ばれ戦後貧困削減の

約 3 割を担ってきた。実は弾力性推計により、分配効果は成長効果の 2 - 5 倍の強さを有することも証明されているが、所得や富の再分配は政治経済学的問題に直面して進め辛いのである。また、経済成長がもし所得分配の不平等を必然的に伴うのであれば（「クズネッツの逆 U 字曲線」仮説）成長の貧困削減最終成果を不明確にするが、1990 年代以降の諸国家計調査データとより精度の高い計量分析手法を使用した研究から、その必然性は存在しないことが証明され、成長が格差を伴うのは各国特有の制度や政策パッケージを含む開発ガバナンスの違いによることが確認された。今、当研究者は科研 A 国際共同研究プロジェクトで、i) これら settled questions がグローバル化下での開発政策展開において再び open questions となっていることを示し、ii) グローバリゼーション下での開発マネジメントにおいて各国共通であるものと各国固有であるべきものを検証する新しい試みにチャレンジしている。本萌芽研究で提案するのはさらに斬新でチャレンジングな開拓研究への着手である。即ち、グローバル化前後の開発諸政策が及ぼす「貧困削減」という「開発の目的と成果」の「尺度」を通じた国際比較制度分析を、近い将来、所得・消費貧困削減以外の人間や国家・社会の「幸福」の他要素・多要素を尺度とした（例えばブータンでは 9 要素、タイでは 6 要素が重要とされそれら尺度の指標化も進められつつある）場合の制度や政策評価へと拡大させる開拓研究に着手したいと考えるのである。

4. 研究成果

先述したように、国際開発協力コミュニティにおける「開発」目的議論が、所得消費貧困の減少（一辺倒）から、社会開発、人間開発へと拡大され、Post-MDGs を見据えて、「持続的な開発」や「開発と幸福」の主流化へ向かっていることを踏まえ、開発目的の多様化に取り組む初動的な研究（挑戦的萌芽研究）展開を国際学術共同研究としてキックオフした。初年度に、並走する基盤研究 A の海外学術共同研究ネットワーク（日本、中国、ベトナム、タイ、インドネシア、ブータン、ガーナ）から、研究者を招き、研究代表者が大会実行委員長を務めた国際開発学会第 22 回全国大会に合わせて、国際共同研究ワークショップを開催し、「開発目的」の多様化や「開発と幸福」に関する初動研究を展開することを確認し合い、本学会において Plenary Session “Diversification of Development Goals under Globalization” を開催した。次年度にかけて、「国民総幸福」の開発哲学で有名なブータン王国王立ブータン研究所や首相直属のプロジェクトと協働し、

Post-MDGs へ向け、国際連合に対して「環境にやさしく、人々の幸福を中心に据える開発概念」に関する提案書 (*Happiness: Towards a New Development Paradigm – Report of the Royal Government of Bhutan*) の作成 (International Expert Group Member) 提出に参加した。JICA 研究所においてインドネシア共同研究者と、多様化する貧困・開発目的に即した諸開発指標の構築と、各種概念での貧困の決定要因分析の雛形を作成し “Measurements and Determinants of Multifaceted Poverty” として公刊した。次年度から最終年度では、これを含めて展開研究を進め、成果を国際学会等で発表してきた。最終成果は2014年末までに刊行予定の2冊組の英文研究成果出版 *Globalization and Development* (Routledge) の2冊目 *Vol.II: In Search of a New Development Paradigm* に組み入れられる。また、グローバル化の中での成長、格差、貧困に関する諸国比較制度分析と開発目的の多様化の政策分析を統合させ、新国際開発協力時代を支える統合研究プロポーザルを創出した

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

Hirano Yumeka and Shigeru Otsubo, “Aid is Good for the Poor,” *The World Bank Policy Research Working Paper Series*, pp.1-40 (Forthcoming in 2014)(国際査読有).

Teguh Dartanto and Shigeru Otsubo, “Intra-generation Poverty Dynamics in Indonesia: Lessons on Household’s Mobility into (out of) Poverty during 1993-2007,” *JICA Research Institute Working Paper Series* (Forthcoming in 2014)(国際査読有).

Teguh Dartanto and Shigeru Otsubo, “Measurements and Determinants of Multifaceted Poverty: Absolute, Relative, and Subjective Poverty in Indonesia,” *JICA Research Institute Working Paper Series* No. 54, pp.1-42(February 2013)(国際査読有).

Yumeka Hirano and Shigeru Otsubo, “Poverty-Growth-Inequality Triangle under Globalization: Time Dimensions and the Control Factors of the Impacts of Integration,” *Nagoya University GSID Discussion Paper Series*, No. 191, pp.1-42 (October 2012) (査読無).

[学会発表](計16件)

Shigeru Otsubo, “New Development Challenges in the 21st Century: Keys for Asia to a Sustainable Development Path,” 2013 Asian Economic Development Conference (Aug. 14, 2013) Chian Mai, Thailand(招待講演).
Shigeru Otsubo and Yumeka Hirano, “Aid is Good for the Poor: Development Aid in a Globalized World,” The 24th National Conference for the Japan Society for International Development (Nov. 30, 2013) Osaka, Japan.

Yumeka Hirano and Shigeru Otsubo, “Pro-Poor Institutions for Development Effectiveness: Cross-Country Empirical Analyses and a Case Study of Ethiopia,” The 24th National Conference for the Japan Society for International Development (Nov. 30, 2013) Osaka, Japan.

Teguh Dartanto and Shigeru Otsubo, “Intra-generation Poverty Dynamics in Indonesia: Lessons on Households’ Mobility into (out of) Poverty during 1993-2007,” The 23rd Pacific Conference of the Regional Science Association (Jul. 2, 2013) Bandung, Indonesia.

Shigeru Otsubo, “Measurements and Determinants of Multifaceted Poverty: Absolute, Relative, and Subjective Poverty,” International Experts Working Group for Post-MDGs Development Paradigm (Jan. 26-40, 2013), Thimpu, Bhutan (招待講演).
Shigeru Otsubo and Teguh Dartanto, “Measurements and Determinants of Multifaceted Poverty: Absolute, Relative, and Subjective Poverty in Indonesia,” The 13th International Convention of the East Asian Economic Association (Oct. 20, 2012) Singapore.

Shigeru Otsubo and Yumeka Hirano, “Poverty-Growth-Inequality Triangle under Globalization: Time Dimensions and the Control Factors of the Impacts of Integration,” The 13th International Convention of the East Asian Economic Association (Oct. 19, 2012) Singapore.

Yumeka Hirano and Shigeru Otsubo, “Empirical Tests of the Poverty-Growth-Inequality Triangle under Globalization: Time Dimensions in Building Institutions,” Human Development and Capability

Association 2012 Conference (Sept. 7, 2012) Jakarta, Indonesia.

Shigeru Otsubo, "Choice of Poverty Measurement and Its Implications on Poverty Outcome and Policy Intervention," Human Development and Capability Association 2012 Conference (Sept. 6, 2012) Jakarta, Indonesia.

Shigeru Otsubo, "Measurements and Determinants of Multifaceted Poverty: Absolute, Relative, and Subjective Poverty," The 1st International Conference on Asian Economic Development (Aug. 31, 2012) Chiang Mai, Thailand (招待講演).

Shigeru Otsubo, "Well-being and Happiness in Japan's Economic Development: In Search of the New Goals of Development," The 1st International Conference on Asian Economic Development (Aug. 30, 2012) Chiang Mai, Thailand (招待講演).

Shigeru Otsubo and Yumeka Hirano, "Empirical Tests of the Poverty-Growth-Inequality Triangle under Globalization: Analyses on Average Relationships and Factors underlying Dispersions," The 13th Spring JASID (June 2, 2013) Yokohama, Japan.

Teguh Dartanto and Shigeru Otsubo, "Intra-generation Poverty Dynamics in Indonesia: Lessons on Households' Mobility into (out of) Poverty during 1993-2007," The 23rd National Conference of Japan Society for International Development (Dec. 12 2012) Kobe Japan.

Shigeru Otsubo and Yumeka Hirano, "Poverty-Growth-Inequality Triangle under Globalization: Time Dimensions and the Control Factors of the Impacts of Integration," The 23rd National Conference of Japan Society for International Development (Dec. 12 2012) Kobe Japan.

Shigeru Otsubo and Yumeka Hirano, "Empirical Tests of the Poverty-Growth-Inequality Triangle under Globalization," The 22nd National Conference of the Japan Society for International Development (Nov.27, 2011) Nagoya, Japan.

Shigeru Otsubo and Yumeka Hirano, "Happiness in the Post-WWII Japanese Economic Development," Happiness and Economic Development Conference (Aug.12, 2011) Thimpu, Bhutan (招待講演).

〔公的報告書〕(計1件)

Happiness: Towards a New Development Paradigm - Report of the Royal Government of Bhutan, A Report to the Secretary General of the United Nations (September 2013)

〔図書〕(計2件)

Shigeru Otsubo ed., *Globalization and Development Vol.1: Leading Issues in Development with Globalization*, Routledge (Forthcoming in 2014)

Shigeru Otsubo ed., *Globalization and Development Vol.11: In Search of a New Development Paradigm*, Routledge (Forthcoming in 2014)

[本2冊組英文書籍の構成は、本文書末尾に添付。以下のURLから詳細参照可能です。]

〔産業財産権〕 無し

〔その他〕

ホームページ等

(プロジェクトHP)

http://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/sotsubo/index_GlobalizationKaken.html

(Routledge 英文書籍構成)

[http://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/sotsubo/131223_Blurbs_Registered\(Otsubo_NagoyaU\).pdf](http://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/sotsubo/131223_Blurbs_Registered(Otsubo_NagoyaU).pdf)

[http://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/sotsubo/131211_RoutledgeKakenBook_Proposal_2Vols\(Otsubo_NagoyaU\).pdf](http://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/sotsubo/131211_RoutledgeKakenBook_Proposal_2Vols(Otsubo_NagoyaU).pdf)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大坪 滋 (Shigeru OTSUBO)

名古屋大学大学院国際開発研究科・教授

研究者番号：40247622

(2) 研究分担者

国内無し

(3) 連携研究者

国内無し

(4) 海外共同研究者

ブータン：

ブータン研究所 (Dasho Karma Ura 所長、Dorji Penjore 副所長、Karma Wangdi 研究員、Sangay Chopel 研究員 他数名) Dasho L.T.S. Powdyel ブータン教育大臣、Dasho Karma Tsetrim ブータンGNHコミッションが研究支援者として名を連ねる。

タイ：

タイ王国国家経済社会委員会 (Ms. Paranee Watana, Director, Development

Evaluation and Communication Office; タイ経済社会開発の評価と“self-sufficient economy(足るを知る経済)” の概念専門家。チュラロンコン大学経済学部 (Chalaiporn Amonvatana 准教授, Director, M A B E プログラム ; Chairat Aemkulwat 講師)

インドネシア :

インドネシア大学経済学部・同経済社会研究所 (Arianto Patunru 教授、所長 ; Teguh Dartanto 講師(JICA 研究所研究員を兼務))

その他、並行する基盤 A(海外学術)国際学術共同研究に参加する、上記 3 力国および、中国、ベトナム、ガーナの研究協力者の協力を得た。(詳しくは以下の URL を参照 : http://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/sotsubo/index_GlobalizationKaken.html)

Forthcoming in 2014 from Routledge

GLOBALIZATION AND DEVELOPMENT

Volume I: Leading Issues in
Development with Globalization

Volume II: In Search of a New
Development Paradigm

Edited by Shigeru T. Otsubo

Table of Contents

Volume I

Part I: Development under Globalization 1. Leading Issues in Development with Globalization, Shigeru Otsubo 2. Poverty-Growth-Inequality Triangle under Globalization, Shigeru Otsubo and Yumeka Hirano Part II: Thematic Issues Related to Development under Globalization 3. Global Governance, Hirotsune Kimura 4. Global Value Chains, Sanae Ito 5. Globalization and Agriculture, Zamroni Salim 6. Global Environmental Management, Kiyoshi Fujikawa and Hikari Ban 7. FDI's and Environmental Management, Muhammad Cholifihani 8. Global

Migration, Akihiro Asakawa 9. Global Development Cooperation, Yumeka Hirano and Shigeru Otsubo 10. Globalization and Conflicts, Yukiko Nishikawa 11. Modeling Global Interdependence I, Hiroshi Osada 12. Modeling Global Interdependence II, Ken Itakura

Volume II

Part III: Country Case Studies 13. Bhutan, Dasho Karma Ngawang Ura 14. China, Zhang Hong, Ye Zuoyi and Zhao Lin 15. Indonesia, Teguh Dartanto and Arianto Patunru 16. Japan, Tetsuo Umemura and Hiroshi Osada 17. Thailand, Chalaiporn Amonvatana and Chairat Aemkulwat 18. Vietnam, Nguyen Tien Dung 19. Ghana, Yaw Asante, Abena Oduro, Daniel Kwaben Twerefou, Albert David Amarquaye Laryea, Eric Osei-Assibey and Bernardin Senadza 20. Africa, Jean-Claude Maswana Part IV: New Development Paradigms and Globalization 21. Balancing GDP with GNH, Dasho Karma Ngawang Ura 22. Sufficiency Economy, Green and Happy Society, Paranee Watana 23. Globalization and Development Paradigm Change of China, Zhang Hong, Dai Long and Wang Yunfei 24. Measurements and Determinants of Multifaceted Poverty, Teguh Dartanto and Shigeru Otsubo 25. Development Paradigm with Decentralization, Sumedi Andono Mulyo 26. Life after Development, Shigeru Otsubo 27. Development Paradigms for Small Island Countries, Tetsuo Umemura 28. Development for the Extremely Poor, Eric Osei-Assibey and William Baah-Boateng 29. Africa's Quest for its Own Development Paradigm, Jean-Claude Maswana 30 Accounting for the Latin America's Development Problems, Carlos A. Mendez-Guerra 31. In Search of a New Development Paradigm under Globalization, Shigeru Otsubo